

警鐘レポート 1 ペーシングワイヤー抜去に伴う心損傷による死亡

事例3

< 事例概要 >

・冠動脈バイパス術を施行。右室前面と左房天井にペーシングワイヤーを留置。術後約1週間でワイヤーを抜去。

・ワイヤー抜去後にリハビリを実施、その約1時間後、血圧60mmHg台、徐脈・冷汗が出現し補液を開始。心エコーを施行したが、心タンポナーデの所見は認めなかった。次第に血圧低下、心エコーで少量の心嚢液貯留、造影CTで心嚢液の貯留を認めた。その後、さらに血圧が低下、心エコーを再度施行し心嚢液の増加を認め、心嚢ドレーンを留置。ドレーンから大量の血性排液を認め、抜去から3日後に死亡。

・死因は、ワイヤー抜去に関連して発生した出血による心タンポナーデ疑い。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖無。